

世界の人々をトマトで健康・幸せに (有限会社 池一菜果園)

<法人の概要>

所在地：高知県土佐市出間

設 立：平成14年10月

資本金：300万円 売上高：1億7千万円

構成員（議決権）：農業従事者4名（75%）

役 員：4名（うち農作業従事3名）

従業員数：常時雇用者38名、臨時雇用者2名

経営面積：1.6ha（うち所有 ha、借入1.6ha）

作付作物：トマト1.6ha、



トマトの管理作業



全天候型ハウス

<営農を開始するまでの状況>

農地はすべて借地。借地に建設している施設ハウスの耐用年数が20～30年であるため、農地を購入した方がいいと思うが、一カ所にまとめた農地確保及び所有権取得は多数の地主の合意が必要なため難しい。現在も、規模拡大のためにまとまった面積の農地を探しているが適地が見つからない。

販路は、地道な商談会への出展や百貨店・量販店等での営業活動により開拓しており、年々販売量が伸びている。また、マスコミ等に取り上げてもらうための話題づくりを積極的に行情報発信に努めている。

地元からの雇用を行いつつ、意欲のある若者を広く全国から受け入れ、農業技術の移行を考えながら後継者育成を図っている。

＜特徴的な取組＞

農業経営の原点は高品質・本物のものづくり。トマトの栽培管理には特に重点を置き、朝・昼・晩・深夜の1日4回の巡回で細かな変化を観察し、トマトの異変や病気の発生などには早期対応を行う。

I P M（総合的病害虫・雑草管理）技術を活用し、防虫ネットや減農薬栽培を行うエコ農業を実践している。

取引先からの要望でトマトジュースを製造・販売した結果、消費者からの評判が良く、更に、これまでにないトマトジュース生産して欲しいと要望が多く寄せられたため、保存料無添加で食塩不使用、水を使わずフルーツトマトだけで使ったトマトジュースを開発した。

県立大学・市役所との産官学連携により、自社のトマトジュースを使って機能性効果のモニター調査を行い、一定の成果が得られた。

＜今後の農業経営の展開方向＞

現在のトマトの生産量では、注文量に応じきれないため、まとまった農地を探し、規模拡大を計画している。

新たな加工品の研究開発に積極的に取り組んでる。

世界の人々をトマトで健康・幸せにするために、大量・安定生産を行うために、海外での生産を計画しており、現在海外での試験栽培を計画している。



社屋及び出荷加工場



トマトジュース